

環境影響評価での現況調査の内容

良好な自然環境と生活環境の保全

環境を良好な状態に保持することを目的として、建設工事や施設の稼働によって、次にあげる環境要素の変化等を把握し、人の健康、生活環境及び自然環境に及ぼす影響を明らかにします。

●大気質（6種別）

・気象

風向、風速及び気温などの気象調査をします。一年間の地上気象を毎日測定し、気球を飛ばして上層気象の調査をします。（図-1A、写真-1）



写真-1 (上層気象の調査状況)

・環境大気、自動車排ガス

施設からの排ガスやごみ収集車等からの影響を予測するため、ダイオキシン類をはじめ様々な物質の調査を行います。（図-1B、写真-2）



写真-2 (ダイオキシン類測定機器)

●騒音・振動・交通量・低周波（6種別）

施設やごみ収集車等の影響を把握するため、収集車の搬入路付近での騒音、振動、交通量及び低周波を調査します。



写真-3 (臭気の調査状況)

●悪臭（2種別）

施設周辺への悪臭の影響を把握するため、臭気濃度などの調査を行います。（写真-3）

●水質（1種別）

施設からのプラント排水や生活排水は河川へ放流しませんが、工事に伴う濁水や、雨水などによる影響を予測するため、水質等の調査を行います。

●土壌環境（2種別）

周辺地域への土壌汚染の影響を予測するため、土壌分析等の調査を行います。

動物・植物の保全

●動物・植物について

施設の建設工事や稼働によって、建設候補地周辺の動物、植物及び生態系に与える影響を予測するために、既存資料の収集や調査を行います。



写真-4 (動物の調査状況)

快適環境の保全と創造

●景観

施設を建設することにより、周囲の景観がどのように変化するかを予測するため、周囲からの景観を調査します。これにより周辺環境と調和した施設整備を検討します。

●日照障害

施設の建設による周囲に対しての日照障害を、予測及び評価します。

●ふれあい活動の場

施設の建設工事や存在による人が集まる施設の利用等への影響を、予測及び評価します。

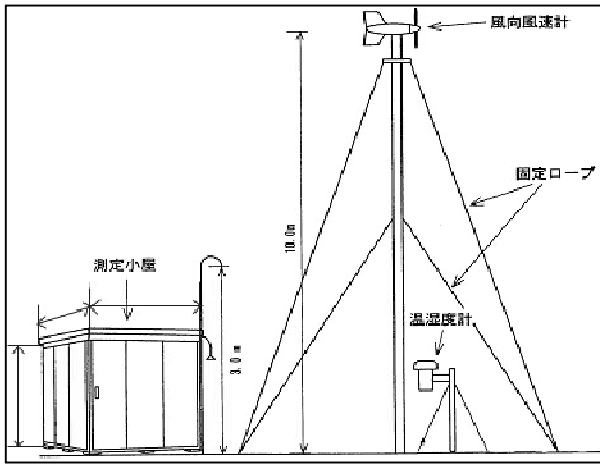


図-A (地上気象調査)

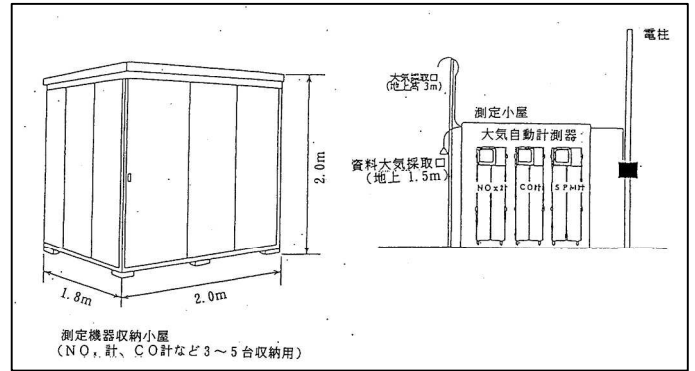
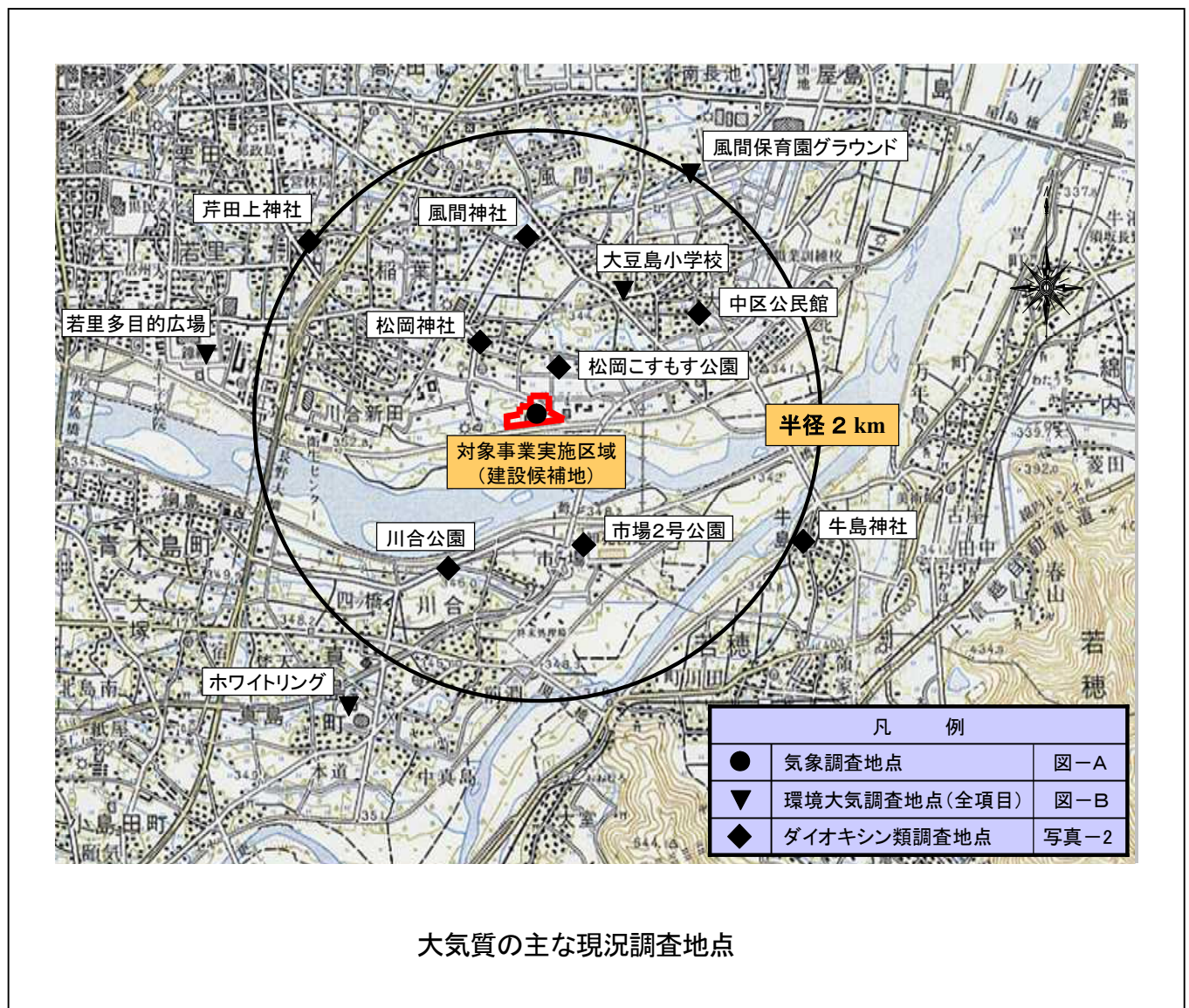


図-B (大気質調査)



大気質の主な現況調査地点

【 事 業 者 】 長野広域連合
 【 調査会社 】 株式会社 エイト日本技術開発
 【 調査期間 】 平成 21 年 6 月 1 日 (月) ～平成 22 年 5 月 31 日 (月)